

看護部

部長 氏名 江藤 由美
 副部長 氏名 水谷 泰子 (教育)
 森 多佳美 (総務)
 小瀬古 隆 (業務)

看護職員数 常勤 512名
 非常勤 126名
 非常勤看護助手 59名
 (H30年3月現在)

■ 基本理念と方針

当院は三重県下唯一の特定機能病院として高度先進医療に貢献すること、さらに次代を担う人材の育成と臨床研究を推進するという使命があります。その使命を果たすために看護部は、「一人ひとりの患者さんに最善の看護を提供」することを基本理念としています。私たちは、専門職としての倫理観を持ち、看護職としての能力の維持・向上に努めることのできる自己教育力を備えた看護師を育成したいと考えております。また、国際化時代に対応できるよう、グローバルな視点をもつ看護師の育成も重要な使命と考えております。

1. 看護部基本方針

- 1) 患者さんの信頼と安心が得られる看護を安全に提供します
- 2) 地域の看護を牽引し、看護の国際交流に努めます
- 3) 看護職を担う人々を育成し、臨床での看護研究を推進します

2. 看護部活動方針

- 1) 高度急性期急性期医療を担う病院の看護職員として、高い倫理観をもち、看護実践力を高めることにより、よりよい看護を提供する
- 2) 職員の職務満足度を高め、看護職員の増加を図る
- 3) 看護学科との連携を図る
- 4) 地域の看護職との連携を図る

■ 看護部の組織と体制

看護部の組織として、看護部長(1名)、副看護部長(3名)のもと、病棟部門(14)、外来部門(2)、中央部門(4)にそれぞれ看護部長・副看護部長を置いています。そして、組織横断的な対応を行う看護の質管理

部門として11部門を設置しています。また、看護部長で構成する諮問委員会(表1)・委員会(表2)を設置し、年度の目標達成に向け活動しています。

表1 平成29年度諮問委員会

| 委員会名 | 検討事項 |
|------------------|----------------------------------|
| 患者サービス委員会 | 患者サービスの観点から課題を抽出 |
| 看護倫理検討委員会 | 看護職員の倫理観を高める方策を検討 |
| 看護経営委員会 | 重症度医療看護必要度、病床稼働率維持における課題を抽出 |
| 機能分化に向けた体制づくり委員会 | 高度急性期、急性期病院として看護として整える課題を検討 |
| 職員の満足度を高めるための委員会 | 職員の満足度を高める方策を検討 |
| 看護教育委員会 | 高度急性期、急性期病院に勤務する看護職として必要な知識技術の検討 |

表2 平成29年度委員会

| 委員会名 | 活動内容 |
|-------------|---|
| クリニカルラダー委員会 | 1. クリニカルラダーの運用 |
| 静脈注射委員会 | 1. 静脈注射認定プログラムの見直し 2. 静脈注射認定プログラムの運用 |
| 看護記録委員会 | 1. 看護記録の教育 2. 適正な看護記録に関すること |
| 看護必要度委員会 | 1. 看護必要度の教育 2. 看護必要度の適正評価 |
| 看護体制委員会 | 1. PNS体制の普及 2. PNS体制の課題の明確化 |
| 看護業務委員会 | 1. 清掃状況の評価 2. 看護職員の接遇に関する業務 |
| 看護基準委員会 | 1. 看護基準の見直し 2. 看護手順の見直し |
| 災害対策委員会 | 1. 看護職員への災害・防災管理研修 2. 各部署災害対策 |
| 看護研究院会 | 1. 看護研究の教育 2. 看護研究促進活動 |

■ 活動内容

看護部活動方針に基づき以下の活動を実施しました。

1) 高度急性期急性期医療を担う病院の看護職員として、高い倫理観をもち、看護実践力を高めることにより、よりよい看護を提供する

・各部署で倫理カンファレンスを定期的に行う土台作りとして「情報共有—合意モデル」を用いたミニレクチャーを実施し、ツールを用いた倫理カンファレンスを16部署で実施しました。

- ・看護実践能力を高めるために、PNS(Partnership Nursing System)研修を実施している福井大学に16名が参加しました。
- ・患者さんが退院後の生活を安心して送れるように退院支援必要患者を早期選定し退院支援計画に着手しました。その結果、退院支援加算2の取得が前年度より100件ほど増えました。
- ・高度急性期病院として、各病棟が救急科患者を積極的に受け入れられるように、救命救急部門との連携強化に努め、その結果、病棟の受け入れ件数は、一昨年度より157件増加し318件となりました。

2) 職員の職務満足度を高め、看護職員の増加を図る

- ・職務満足度調査を実施し、その結果をフィードバックし自部署の現状と課題を明らかにし、課題解決に取り組みました。
- ・看護管理者の能力を高めるために、副看護部長とプロジェクトメンバーがペアになり、PDP(Problem Discovery Process)シートを利用して各部署の問題解決に取り組み、その結果、全看護部長が意見交換会を通して、管理者としての課題解決のプロセスを議論することができました。

3) 看護学科との連携を図る

- ・昨年度に続き看護学科との連携として臨床の看護師が看護学科でCNTAP (Clinical Nurse Teaching Assistant Project) の取り組みを行い、シミュレーション教育等に参加しました。
- ・国際交流プロジェクトチームを設置し、看護学科と提携しているドイツフライブルクカトリック応用科学大学、タイチェンマイ大学からの研修生を受け入れました。

4) 地域の看護職との連携を図る

- ・三重大学関係病院長会議看護部会を開催しました。24病院の看護部長の出席のもと、専門・認定看護師の数について照合し、病院間での役割について協議しました。また、「医療安全の視点から考える臨床倫理」をテーマに講演会を開催しました。
- ・皮膚排泄ケア院内認定「中級コース」について院外の看護職員に受講募集を行い、県内の病院の看護師から合計14人、のべ28人の申込みがありました。
- ・がん連絡会議看護部会を2回開催し、三重県がんにおける質の高い看護師育成研修・がん患者の意思決定支援研修について議論しました。
- ・文部科学省委託事業「看護管理者の院内継続教育開発の推進」事業として、三重県内の看護部長・副看護部長を対象にCNML(臨床看護マネジメントリーダー)養成研修を3日間にわたって実施し、県内25施設34名の参加があり、県内CNML30名が誕生しました。

・主な実績

認定看護師が新たに2名(皮膚排泄ケア認定看護師、感染制御認定看護師)誕生し、合計14名となりました。また、看護部教育活動として、クリニカルラダー、院内認定、静脈注射などの研修を行い、それぞれ認定者、合格者が誕生しました(表3)。実習及び研修の受け入れでは、海外からの学生受け入れも実施しました(表4)。さらにドイツフライブルクカトリック応用科学大学、英国ロンドンロイヤルフリーホスピタル、タイチェンマイ大学でそれぞれ1名が、看護職員海外研修を行いました。学会ならびに研究会・地方会での発表は13件、執筆は12件でした。

表3 クリニカルラダー・院内認定・静脈注射認定者

| | 人数 |
|--------------------------|----|
| クリニカルラダーレベルⅠ認定者 | 51 |
| クリニカルラダーレベルⅡ認定者 | 63 |
| クリニカルラダーレベルⅢ認定者 | 5 |
| 皮膚排泄ケア 初級認定数 | 25 |
| 皮膚排泄ケア 中級認定者 | 14 |
| がん看護 初級認定者 | 11 |
| がん看護 中級認定者 | 1 |
| 静脈注射認定クラス3 薬剤ランク2a b 合格者 | 66 |
| 静脈注射認定クラス3 薬剤ランク2c 合格者 | 89 |
| 静脈注射認定クラス3 薬剤ランク2d 合格者 | 89 |

表4 実習・研修受け入れ

| | 人数 |
|-------------|-----|
| 大学院生 | 3 |
| 大学生 | 355 |
| 看護学校生 | 44 |
| 潜在看護職員等復職研修 | 10 |
| 准看護師 | 10 |
| 海外学生 | 8 |

■ 今後の展望

今後も、高度急性期・急性期を担う病院の看護職として高い倫理観と必要な知識・技術を身に付けた看護職の育成を継続し、質の高い看護を提供できるように取り組みたいと思います。

また、医療人の育成と未来を拓く臨床研究の推進を担う大学病院として、国内外の学生や研修生を受け入れるとともに、個々の看護職員が研究マインドを持って働くことのできる職場作りに取り組んでゆきたいと思います。

▶ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/nurse>